

2024年度

Since 1969
To the future

2 あいさつ・令和5年度大ほんごう会の報告

3 - 6 卒業生だより

7 - 13 卒業生だより クラス会・OB/OG会

14 - 15 協賛広告

16 令和6年度大ほんごう会の開催案内

関東支部懇親会の開催案内

事務局からのお知らせ

編集後記

VOL.
28

富山高等専門学校本郷キャンパス同窓会会報

ほんごう

令和6年11月30日(土) 大ほんごう会(同窓会総会・懇親会)参加者大募集!(詳細はP16をご覧ください)

撮影

E9 佐伯則男「雲海から雪の尾根を登る 五竜岳より」



あいさつ・令和5年度大ほんごう会の報告

ほんごう会の皆様へ

富山高専本郷キャンパス同窓会副会長
上田 一人 Kazuhito Ueda (M15)



ほんごう会の皆様におかれましては、健康でお元気にされている事と思えます。

会長の長浜さんから指名され、副会長という職を引き受けました。しかし、自分の健康問題とコロナ禍であった事で思ったような活動ができていませんでした。

1) 大ほんごう会について

昨年は4年ぶりに大ほんごう会を開催しました。活動報告と講演会には109人、その後の懇親会には99人が参加されました。開催後の話として「諸先輩方、後輩の皆さんと歓談できて良かった」「数十年ぶりに懐かしい顔を見る事ができて良かった」との声を聴けて、役員一同は大ほんごう会を開催して良かったという意見が大半でした。

今年も大ほんごう会を開催します。参加人数を更に増やすにはどうするか？どうやって若い卒業生に参加してもらうか？が課題であり、役員で検討しています。

卒業生の皆さんにおかれましても、知り合いの卒業生へ積極的に声掛けをしていただければ幸いです。

2) 卒業生同士や在校生からの頼られる存在としての組織作り

県内外において、多くの卒業生が幅広い分野で活躍されていますが、なかなかその内容までは知る事ができないと思うのです。将来的には、いろんな意味での相談窓口的な役割ができればと考えます。仕事などで困った時に、気軽に同窓会の人に相談できるってよくないですか？

在校生が困っている時に、助けてあげられるような組織になればと考えます。

まだまだチカラ不足の同窓会ですが、活動を継続しながら少しでも卒業生のチカラになればと考えています。

最後に、ほんごう会の皆様のご多幸を祈願しています。

令和5年度大ほんごう会を開催して

ほんごう会会長
長浜 啓一 Keiichi Nagahama (M5)

カナルパークホテル富山(11月18日)にて、4年振りのほんごう会定期総会・懇親会(大ほんごう会)を開催しました。全体では、114名の卒業生の皆さんに参加頂き大変感謝申し上げます。懐かしい先輩の顔、後輩の顔、同僚の顔と、学生時代に戻ったような時間を過ごして頂けたのでは？と思っています。

定期総会は、会長あいさつ、ほんごう会活動報告(打出副会長(C10))、伊藤通子さん(C11)による記念講演を行いました。講演テーマは「仕事も、子育ても、介護も、学びも、諦

めない人生を!!」と、ご自身の過去、現在と今後の将来を見つめた内容の40分間でした。

懇親会では、軽音楽フォークソングOB OG(本郷姉妹)によるライブ演奏と県内で活躍するマジシャンによるイリュージョンを楽しんで頂きました。時間が経つにつれ、最初のかたい表情から会話と笑いが溢れだしており、大ほんごう会を開催して本当に良かったと思いました。

今後も、卒業生皆さんと交流を深める大ほんごう会を提供しますので、よろしくお祈りします。



令和5年度 大ほんごう会 定期総会 懇親会 於 オークスカナルパークホテル富山 令和5年11月18日

技術士になろう

元 日立造船株式会社 舞鶴工場 特機部 設計部長 技術士(機械部門)

石川 憲治 Kenji Ishikawa (M3)



みなさん、こんにちは。私は現在、神奈川県に住んでいます。湘南の海岸道路をナナハンで走るのが趣味でした。数年前に、体力的に大型バイクは厳しいかなと思い、妻(C2)お供でバスツアーを楽しむことに変更しました。先日は立山黒部アルペンルートツアーに行ってきました。体力は若干低下しましたが気持ちは若いです。72歳にして技術士試験に挑戦しました。技術士を目指す方の少しでも参考になればと思い受験経験をご報告します。

1. 業務履歴と技術士を目指すきっかけ

1971年に機械工学科を卒業し、日立造船に入社しました。以降、設計業務を約50年間行っています。その間、様々な設計を担当していますが、一言でいえば、一貫して水に係る機械の設計です。

最初は船舶用のディーゼルエンジンの設計、次に船舶のプロペラや動力軸の設計、さらに洋上補給装置など船舶の装備品の設計へと、より検討範囲の広い業務を担当してきました。これらの技術を集約して取り組んだのが、防衛省向の水陸両用車の開発で、世界トップクラスの海上性能を達成しました。当時は、事業所内の加工や溶接などの専門家や、社内の技術研究所に相談することができたので、技術的に恵まれた環境で開発に集中することができました。このため技術士になる必要性は感じていませんでした。2015年に再雇用期間満了のため65歳で退職しました。造船会社の統合や自部門の分社独立により、退職時の社名はJMUディフェンスシステムズです。

その後、特許庁などの勤務を経て、2018年に遊戯施設の会社であるインタミンに入社し、水陸両用車の技術を生かして、遊園地の水路を循環する乗物の開発を担当しました。インタミンは、スイスのIntaminという遊戯施設の会社の国内窓口、国内外の顧客やメーカーとの調整、国内法規適合の検討、輸入、据付、調整、国内製作分の設計・製造を担当しています。スイスIntaminは遊戯施設メーカーとしては大手ですが、国内のインタミンは少数の会社なので、技術課題について相談できる体制が十分ではありません。安全で楽しい遊戯施設を提供するために自身の技術力を向上させる必要があると考え、技術士になることを決心しました。

2. 一次試験

技術士試験は一次試験と二次試験があります。年に各1回しかない試験ですので、一次試験から始めると最低でも2年かかります。JABEE修了者であれば一次試験が免除されます。一次試験は高専あるいは大学で勉強する内容に近いです。(以下の統計値は2022年度試験の結果です)年代別合格率は20代で46.9%、70代では21.1%です。なるべく若いうちに受けるのが良いです。最終学歴別合格率は高専が38.8%、大学が38.5%です。後で述べる二次試験の合格率を考慮しても、高専の教育レベルは高いです。

私は2018年に技術士なることを決心し、翌2019年に一次試験を受験し合格しました。受験準備は、専門科目や一般科目を復習しては過去問を解くことを繰り返しました。数学については石崎先生に鍛えられ、卒業後も数値解析の仕事も行っていますので、復習に時間はかかりませんでした。他の科目については、改めて復習すると、学生時代では気が付かなかった発見があり、とても楽しく有意義でした。

3. 二次試験

一次試験に合格し、所定の実務経験があれば、二次試験を受験することができます。二次試験は21の部門に分かれており、さらに各部門は選択科目に分かれています。二次試験は、筆記試験と口頭試験があり、筆記試験合格者に対してのみ口頭試験が行われます。願書は単なる申請書類ではなく口頭試験で使用されますので、願書を提出する時点から二次試験は始まっています。筆記試験は全9枚の原稿用紙に解答を記述する試験で、これが難関です。知識、応用能力、問題解決力、課題遂行能力が問われますので、暗記だけでは筆記試験を突破できません。口頭試験では技術者としてのコンピテンシー(コミュニケーション、リーダーシップ、評価、マネジメント、技術者倫理、継続研さんなど)が問われます。

合格率は全部門の平均が11.7%で、そのうちJABEE修了者が11.9%です。年代別合格率は30代が最も高く13.4%、70代になると5.1%です。二次試験も若い方が有利です。最終学歴別合格率は高専が9.9%、大学が10.2%です。ちなみに二次試験の最年少合格者は、福井高専卒の女性で受験時25歳だそうです。なお平均合格率が11.7%ということは、単純計算では8回受けないと合格できません。このためモチベーションを維持する必要があります。私の場合は2019年末の関東地区M3クラス会で技術士になると宣言して、自分にプレッシャーをかけました。

受験準備は、所定の枚数の原稿用紙に解答を書く練習をしました。筆記試験は手書きなので、解答途中で前半の文章を修正するのは文字数が変わるので困難です。このため解答の構成をあらかじめ練ってから書き始め、途中でブレない訓練が必要です。過去問あるいは国土交通白書やものづくり白書などから、課題を抽出し、課題の解決策、解決策を実行した場合の波及効果、リスク、リスクの対策などを纏める練習をしました。不明な用語はインターネット等で調べノートに整理しました。二次試験は、3回目の挑戦で2022年度に72歳で合格することができました。

4. まとめ

技術士は、医師や弁護士とは異なり、技術さえあれば、技術士の資格がなくても業務は遂行できます。しかし、技術士になることで社内の評価や顧客の信頼を得ることが期待できます。なによりも技術士の勉強をすることで、自身の技術力や問題の解決能力を高めることができます。また技術士会に入会することで、幅広い人脈の形成ができます。70歳を過ぎても合格可能ですので遅すぎることはありません。若ければ、なお好機です。みなさん、是非、技術士試験に挑戦してください。技術士になって、安全で持続可能な社会の実現など、公益の確保に貢献しましょう。



2019年11月 関東地区M3クラス会

高専を卒業してから

濱本 智 Satoshi Hamamoto (M11)



はじめに

ほんごう会事務局より、会誌に寄稿して欲しいとの依頼があった。テーマは、①会社、職場紹介 ②学校を卒業してから今日まで ③高専の思い出 ④若い世代に期待する事の中から選んで欲しいとのことなので、自分の半生を振り返る意味でも、「高専を卒業してから」をテーマにした。

長岡技術科学大学へ編入

私は、昭和54年（1979年）3月に当時の富山工業高等専門学校機械工学科を卒業し、開学して間もない長岡技術科学大学（以下技大）に編入をした。私は二期生でしたが、同学年生は全員高専からの編入者で、当時「諸君は高専で大学の学部の講義は、既に習っているはずなので、ここでは大学院での講義をします。」との教官がいて、かなりマニアックな講義があったと記憶している。内容はあまり覚えていないが、会社に入って役立ったのは、高専で習った専門教科の方でした。技大では、学部から大学院（修士）に進学する場合は、5か月間のインターンシップ（実務訓練と言っている）に行く必要があった。私は都内の中堅センサーメーカーに行った。学生の段階で、企業の雰囲気を知れたことは、後々大変役に立った。その後、大学院に進学したが、何しろ二期生だけに、研究室の伝統がほとんどない。自分たちが伝統を作っていくしかなく、何とか工夫して実験装置を自作した。論文のレベルは高くなかったかもしれないが、工夫すれば何とかできるという事を実感した。当時の技大では、VOS精神を叩き込まれていた。（VOSとは、Vitality, Originality, Servicesの頭文字で、初代学長が命名したもの）特に、独創性（Originality）を重要視されていた。

不二越入社

1983年4月に株式会社不二越に入社した。実務訓練時代に、都会の生活は自分には合わない気がして地元の会社に就職した。配属されたのは、油圧事業部技術部で、私は油圧バルブの開発・設計に携わることになった。VOSの精神を叩き込まれていたこともあって、独創的な商品を開発したいとの気持ちが強かった。今までにないものを、他社に無いものを開発したかった。独創性の証が欲しいと、特許出願には拘った。今回改めて、特許庁のホームページで出願件数を検索したところ、全部で52件あった。上司や同僚などの共願で、自分の発案でないものを除くと32件で、このうち特許として権利化されたのが16件、さらにその特許を使って商品又は、商品の一部に実際使用したのは9件だった。まあまあ多く出願した方かなと思いますが、これらの特許でいくら売上が上がり、どれだけ利益に貢献したかと言えば、残念ながら胸を張って誇れるほどでは無いと思います。しかしながら、他社に無いオンリーワン商品、業界初の商品も開発できたのには満足しています。なお、現在は全ての特許権が切れています。

品質工学（タグチメソッド）との出会い

1990年に当時の計量管理協会（現在はJCSS：日本計量振興協会に統合）に、品質工学（当時はこの呼び名がなくタグチメソッド）の講習を受講するように上司に勧められた。講義は、毎月3日間で6か月間、その後6か月で自分のテーマの課題を解決して終了するという結構ハードな中身であった。講義は難解で講師の1人は「宇宙人が話をしているみたいだろう。」と言われていたのが印象的だった。確かに難しかったが今までにない新鮮味があり、どうせなら宇宙人の言葉を理解してやろうと一生懸命勉強した。講義の1/4程度は田口先生（故田口玄一博士）から直接教わり、良い思い出になった。開発で一番大切な事

は、チャンピオンを探すのではなく、ばらつきを最小にして機能を最適化すること。その方法として、直交表を利用したパラメータ設計があることにすごく感銘を受けた。その後、自分の仕事で、何度かその方法を取り入れ、実際に成果が出るので夢中になった。1996年当時の富山商船高等専門学校（現富山高専射水キャンパス）に、技大の同級生がいたことから、非常勤で品質工学を教えて欲しいと依頼され、教えることで自分の勉強にもなると思いつけることにした。毎週1回90分、若い人達に会うだけで、元気をもらっていたと思います。学生たちに、何とかして勉強してもらいたいと、「公認カンニングペーパー持ち込み可」の試験とした。試験前に私の名前の判子押したA5の紙を配り、これに何を書いてきても良いからと全員に配った。少なくとも、カンニングペーパーを作っている間は、勉強することになるので。当時この方法は、学生に好評だった。その頃、課長に昇進し忙しかったので、非常勤講師は、2001年に後任にバトンタッチした。

品質管理部で

2005年3月の異動で、油圧事業部品質管理部の部長になった。品質管理部は、是正処置が多く（早い話がトラブル対応）何とか予防処置に転換したいと奮闘していた時に、とんでもない事が起きた。船舶の操舵装置に使用する油圧製品で、不具合が生じたという事で、製品が返却されてきた。油圧機器の不具合原因は、作動油中のゴミ（コンタミネーション）による場合が多く、今回はゴミが原因だろうと思って分解した。その結果、ある部品が2つに破断していた。外径32mm、長さ約250mmの焼き入れした鉄の棒である。これには驚いた。早々、社内の熱処理に詳しい人に見てもらった。これは「置き割れ」という現象との事であった。「置き割れ？」学生時代に習ったかも知れないが記憶に無かった。焼き入れ品は、焼き入れ後、必ず焼き戻しを行う必要がある。この際、焼き入れ品を一旦常温まで下げた後で、半日、長くても1日以内に焼き戻しを行う必要がある。焼き戻しまでの時間が長いと、鉄の組織が安定せず、常温でも残留オーステナイト（鉄の組織の名前）が、マルテンサイト（焼き入れした鉄の組織の名前）に変態し、体積が大きくなるので割れが発生する。と教えてもらった。調査の結果、炉の故障で数日間、焼き戻しされなかったことが分かった。これは、大変なことになった。同一ロット品が全て同じ事になる。この製品は超重要保安部品なので、トレーサビリティはきちんと採れるようになっていた。早々同一ロット品が、どの製番の製品に割り当てられたかを突き止めて、納入したメーカーへ出張した。不二越側は、私と担当支店と特約店の営業マンの計3名、メーカー側は9名ほど出てこられた。さすがは日本を代表する重工業メーカー、名刺交換すると、3名の方が博士でそのうち1名は材料が専門と書いてあった。これはえらいことになったと緊張した。「今回の不具合内容を説明して下さい。」とのことで、にわか勉強をした「置き割れ」だったことを説明し、全数交換を申し出た。色々と専門的なことを質問されるのではと思っていたが「今の濱本さんの説明の通りですね。」と材料専門の方から言われた。「交換工事は弊社で行います。交換費用については、不二越さんで負担して頂きますね。」との問いに「はい。」と言わざるを得なかった。やる事が決まったので、早く処置をする必要があった。就航中の船の操舵が効かないとすると、大事故になるのが明白だった。代品を準備して交換後送り返してもらい、問題の部品を交換してまた代品として送ることを繰り返した。この時、就航中の船が4隻、建造中は7隻、残りは製品として在庫されていた。代品は、国内数か所と、シンガポールとオーストラリアにも送ったことを覚えている。出張して不具合調査報告をしてから、全ての交換工事が終わるまで、約3か月を要した。幸いにもこの間、事故は1件も起きなかった。ようやくこの件が落ち着いた頃、上司に呼ばれた。山形にある生産子会社へ転勤する事になった。私は何のためにその会社へ行くのですかと質問したら、次期社長になってもらうとのことだった。当時の上司は、欧米で長く営業を行っていた方で、「濱本君、山形は国内だから言葉が通じるからまだ良いよ。俺なんか言葉で大変だったよ。」と慰められた。

卒業生だより

山形赴任

2006年9月に山形の子会社に赴任した。赴任して最初に感じたのは、上司の慰めとは裏腹に、言葉が通じなかったこと。私との会話は、彼らも気を付けて話してくれるため聞き取れるが、ネイティブ同士の会話になると、聞き取れなかった。もっと驚いたのは、青森出身の社員に対して、彼の訛りは酷いと言っていることだった。「んだんだ、はいず（あいつの意味）の訛りは、ひどいべな〜」と真顔で話をしていて。私は聞き分けることが困難だった。山形に赴任して間もなく、置き割れでお世話になった支店から封筒が届いた。中を空けてびっくりした。なんとご迷惑をお掛けした会社から、表彰状が届いたのである。ちなみに、賞金3千円も同封してあった。表彰理由は、重大トラブルを未然に防止した事であった。クレームを出して表彰されるなんて聞いた事がない。本当に嬉しかった。必死になって、代品を送り続けたのが報われたと同時に、この件で表彰するなんて粋な会社だと思った。この時、交換工事費用として、数百万円を支払ったことも知ったが、それだけの額で済んだことに安堵した。



表彰状

赴任した山形の会社は油圧機器を製造していたが、1965年に倒産しメインバンクが不二越と同じだったことで紹介を受け業務提携の後、不二越が小会社化した。1970年以降、社長は不二越出身者となっていた。不二越のブランド「NACHI」ではなく、別のブランドを持っていたため、子会社となっても独立心が強かった。出向者は社長一人か、多い時期でも二人だったので、かなり疎外感があった。赴任当時の従業員は、約230名だった。何とか現地に打ち解けようと、山形弁を少しずつ覚えることにした。初めて聞く単語の意味を覚えてもらい手帳にメモした。メモが50語ほどになってから、発音、意味、使用例を表にした辞書を作った。その辞書を社員に見せたところ、面白い反応が返ってきた。同義語、反対語などを教えてくれて、語彙が増えていった。山形に滞在した3年間で約300語になった。この辞書作りを通じて次第に打ち解けていくことが出来た。

リーマンショック

赴任して2年後の2008年9月に、例のリーマンショックが起きた。売上が一気に70%減となった。現金、預金、手形などの流動資産が見る見る無くなっていった。財務の担当者といつまで資金が持つかを、毎週計算した。当時、生きた心地がしなかった。メインバンクに融資をお願いしたが、「不二越さんも調子悪いですしネ！」とニコニコしながらの対応だったが、一銭も貸してもらえなかった。銀行は「晴れたら傘を貸して、雨が降ったら傘を取り上げる。」正にその通りだと思った。こんな時、どうやったら融資を受けられるのか、これまで習った事も、勉強した事も無かったので、「銀行員と付き合う方法」なる本を2冊読んだ。2009年の春になってとうとう持ちこたえられず、本社の許可を得てリストラに踏み切った。リストラの資金として地元の銀行に融資を依頼したら「そういう理由があるのなら」と言っ、数億円を融資してもらった。リストラは数十人規模で、断腸の思いだった。リストラ後も資金が不足していたので、あと1億円の融資をお願いしたら、「根抵当を下さい。長いお付き合いをしましょう。」とのこと。「根抵当？」この時この言葉を初めて聞いた。「根抵当」とは、借金を全額返済しても、抵当権が外れない抵当権で、予め限度額を決めておき、限度額以内なら何度でも融資してもらえる。借金がゼロになっても、次また融資を受ける権利が残るので、抵当権が外れないのである。これはとんでもない。早々本社の財務部に相談したら、短期の融資を受けて転がせば良いから（期限が来たらもう一度融資を受けて返済する）との事で、短期で借りた。この時の教訓から、現在はCMS (Cash Management System) が導入され、資金はグループ会社全体として一括で管理されるようになっている。

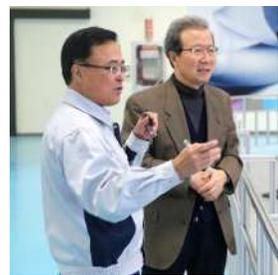
本社に戻って

最後の融資を受けてから間もなくの2009年9月に油圧製造所の所長として、本社に戻ることになった。仕入先の皆さんから、「あなたは運の悪い人だ。こんな酷い時に所長になって戻ってくるなんて。」と言われたことを覚えている。その後、次第に受注が増えて何とか持ち直した。2010年12月に、全社の事業部を統括する生産統括部の部長となった。この時期、不二越の全工場

と国内外の生産子会社を見て回ったことと、設備投資の規模とタイミングを学ぶことができた。2011年頃、中国に生産子会社を造る計画が持ち上がった。その会社は、工具、油圧、自動車用部品、ロボット、の4つの事業部の工場が1つの敷地に入ることになるのだが、各事業部から好き勝手な要望が出てくるため、工場全体のレイアウトがまとまらなかった。そこで、生産統括部が全体をまとめるようにと指示された。建設会社も交えて色々な要望を聞きながら、3ヶ月ほど掛かってようやく全体のレイアウト（事業部間の区分け）を決める事が出来た。個々の事業部内の工場レイアウトは、各事業部に一任した。

中国赴任

中国の生産子会社のレイアウトが決ってから、ほぼ1年後の2013年3月の異動で、なんとその子会社に赴任することになった。こんな巡り合わせがあるのかと思った。こんな事になるのなら、あの時一任せずに、もっと突っ込んで考えるべきだったと思った。その異動で、今度は本当に言葉が通じないところへ来てしまったのだ。中国では工場の立上げからだったので大変苦労した。中国人と日本人は、考え方が大きく違うので、日本では起こり得ない事が起きて驚きの連続だった。従業員に、ICカードを持たせて、出退勤を管理していたのだが、このカードを同僚に預けて、自分は早く帰っているのに、残業した同僚の帰宅時に、カードリーダーに込み込んでもらい、残業したことに見せかける。休日の午前8時と午後5時に来て、カードを読み込ませ、休日出勤したとする不正が後を絶たなかった。この不正防止のため、現在は顔認証システムになっている。そうかと思えば、生産面でも不可解な事が起きた。ある製品の組立・検査工程で、サイクルタイムから計算できる出来高の1/2の量しか生産が上がらないのである。おかしいと思ったら、10名ほど部下を持った当該班長が、生産を抑えるよう統制を掛けていたのである。理由は、残業と休日出勤をしたいからだ。中国の就業規則は、労働者寄りに作られており、簡単に辞めさせることは出来ない。すると中国人スタッフから、思わぬ提案があった。組立・検査工程を別の班長に任せて、輸送班を作って彼を班長にしようと。輸送班とは名ばかりで、部下を1人だけにして、もっぱらフォークリフトの運転に専念してもらった。3か月後、彼は自から辞めていった。なぜなら、完全に面子を潰されたからである。中国人スタッフの提案は、最初から面子を潰すことにあった。なるほど面子に拘る国だけのことはあると納得した。工場立ち上げ当時は大変だったが、3、4年して軌道に乗ってからは順調だった。従業員も200名ほどに増えていた。部品の現地調達化を推進したことで、コストダウンも進み、利益の出る会社になっていった。この間2015年2月に董事長（現地法人代表）になると同時に本社の執行役員に、その後上席執行役員を経て、取締役（現在は退任）に取り立てて頂いた。2020年6月コロナ禍の中、成田空港近くのホテルで、2週間待機した後帰任した。



中国子会社での工場案内

おわりに

今振り返ると色々な事があったが、先輩や同僚、部下など多くの人に助けられながら乗り切ってこられたと思います。特に、高専時代の5年間で共に過ごした同級生達とは、常に励まし合い支え合ってきました。彼等とは、かけがえのない仲間として、今でもお付き合いさせてもらっています。これまでお世話になった多くの皆さんに感謝したいと思います。最後に、諦めることなく考える事、決めたことは素直に愚直にやり続ける事、そして、スピード感を持って行動することが重要だと思います。最後まで読んで頂き、ありがとうございます。



いつものメンバーと

卒業生だより

高専精神とボク

川合 一成 Kazunari Kawai E20



ボクが生まれたのは、第2次ベビーブームを迎える直前だったと思います。ボクの生まれた福光でも比較的多くの子供が生まれた年だと記憶しています。同期世代の人間が多いという事は自然、受験などが厳しくなる競争世代でした。ボクたちの前後の世代は受験だけではなく、運動能力が問われる部活動でも競争社会であったという事です。

そんなボクは、中学生時代に急速に成績を上げて少しだけ学校でも目立つ存在になりつつありました。それまでのボクは何の取り柄もないただの人だったのです。何も考えずに最初に挑んだ競争社会の洗礼が高校受験でした。成績だけで高校受験に勝ち抜くには説得力がありません。部活動での活躍も加えねば。そこで選んだのが友達に誘われた水泳部でした。決して水泳が得意だからではありません。事実、ボクは水泳部に入るまで25m泳ぐのがやっとでした。しかし水泳部での基礎体力評価は上級生もマネできないほど優れたものでした。一度自分の限界に挑戦した逆立ちの持久力が並みいる先輩たちを抜いて1番だったからです。持久力に自信のついたボクは、その他持久力が試される競技にチャレンジしドンドン成果を出していったのでした。その成果は徐々に学校の成績にも表れてきて、中学校高学年の際はトップクラス。未公認ながら統計会テストで日本4位となったこともあります。

いい加減な性格だったボクは、高校受験の際も公立高校は絶対に受かる程度の高校を受験し、私立高校の代わりに国立高専を受けることにしました。私立を受けるためにはある程度金を払って受験する必要があります。その受験費用がもったいなくて私立の代わりに国立を受けるという離れ業でした。言っておきますがボクの家は貧乏ではありません。ただ単に人のやらない事をやりたかったからです。ボクの家族は揃ってそういうひねくれもののボクを応援してくれました。ところで公立高校の受験は国立高専の可否発表の後になります。ウっかり間違っただけで国立高専に受かってしまったボクは、その後高専の難しいカリキュラムに苦しむこととなりました。高専。そこで思いがけない出会いが。学年主任が石崎先生となったのです。いわゆる「ザキ」と呼ばれる学校で一番の強面先生。石崎先生はボクの父の元家庭教師だったので。おかげで上級生に睨まれることのない平穏な生活を送ることができたのです。肝心な学校の成績は真ん中位を維持していましたが、成績に関して特徴的なことが1つありました。それは仲の良い友人とボクの成績が連動している事でした。ボクの成績が悪い時は仲の良い友人も成績が悪く、ボクの成績が良い時は仲の良い友人も成績は悪いという事。仲の良い友人は高専にトップ合格した人なのでボクは結局ただの一度も成績で彼を追い抜かすことはできませんでした。

高専から大学へは編入学という形で千葉大学に入学しました。しかも工学部・画像応用工学科という聞きなれない学科です。高専と同じ電気工学科であった場合、卒業は楽だったかもしれませんが新しい事を沢山学べないと考えたからです。向上心の表れだったのかもしれませんが、おかげで随分苦労しました。本来、長男であるボクは家業を継ぐべきであったかもしれませんが、大日本インキ化学工業株式会社(現:DI C株式会社)に就職しました。家業を継いでも自分



自身、それ以上の発展は望めなかったからです。就職の相談をした教授(レオロジーで有名な大坪教授)が高専出身であり、またこの人も機械工学科から化学科に移った人であったという事もありました。電気工学を学んだボクはズルズルと化学の道に目覚めていきました。

会社に入ってから恐モテの上司がいる部署への配属が多かったため、いろいろと得をすることが多かったと思います。学校生活も会社での生活も同じだとは思いますが、先輩が有力者であるという事は非常に大事な事です。のちに磁気材料を研究する技術グループに入った時もボクの有力者の先輩がいつも味方になってくれたものです。仕事でも仲の良い同僚は名前だけの役職に就くのですが、ボクは何故か責任が大きく問われる面倒な役職に就き成果を上げていきました。最初は社内でも見捨てられかけた製版用OPCの開発です。その分野でボクは半年でその分野のエキスパートたちが驚くような成果を挙げたのです。元々、製版用OPCは機能性有機顔料を2種類混ぜてアルカリ可溶性樹脂で固めただけの製版用感光体でしたが、その感光体の機能は2種類の感光体の物理的接触により発現していたことに着目し、その2種類の顔料の物理的接触を促進するべく、両者の顔料を一緒に乾式粉碎して一体化させたいのでアルカリ可溶性樹脂に混ぜ込ませます。するとその製版用OPCの性能は当時10%程度性能が向上すれば上出来と言われた世界で300%向上という途方もない感度を有するものが出来上がったのです。当然、この発明は権利化せねばなりませんので特許出願しました。この発明は残念ながら特許にはならなかったのですが、ボクが特許に触れる第1号の発明となりました。

この成果を皮切りにボクは更なる大胆な発明が無いかを模索していきました。世界初となる顔料型の水溶性インクジェットインクの開発がそれに当たります。有機顔料を分散剤ではなく自己水分散系樹脂でくるむことで分散性を上げたのです。それも従来用いられてこなかったマイクロカプセル化という手法を使って。従来のマイクロカプセル化手法は「転相乳化法」が一般的でしたが、新たに「懸濁再沈殿法」という乳化方法を開発して権利化しました。この発明ではカーボンブラックを使った黒色インクに関しては上司に発明の権利を渡したのですが、カラーインクに関しては全てボクが第一発明者となりました。このころからボクは徐々に特許に触れることが多くなり、その重要性に気付きました。ボクが接した仕事の中で社内の売り上げを大きくのぼしたのはクレジットカード用磁気テープでした。クレジットカードの裏面についている黒い磁気ストライプがボクの発明です。この時期、会社内部では特許の出願件数を多くすることが望まれました。今まで磁気テープ以外の部署で開発を行っていたボクは、先人たちが築き上げてきた技術で弱点と思われる部分をドンドン改良していき、なかなか手を出せなかった構成材料の見直しを行い、改良を加えていきました。(例えば大便の匂いのする樹脂→無臭の樹脂)特許出願を多くするという機運に乗りボクは大量の発明を出願することに成功しました。すっかり特許を書くことに慣れてしまったボクは、その後の仕事でも発明になりそうなものを見つけ出しドンドン特許出願していったのです。その結果、出願件数は100件弱になっていました。特許出願は自分の仕事をアピールする良い機会ですし、ドンドン出願することを勧めます。その結果、小遣い稼ぎにはなるし、自分の立場を向上させる良い機会となり得ます。またボクは権利化する過程で、実験上権利化するのに足りない部分を抽出することができたのでした。これからは機会があれば特許出願をしていきたいと思っています。

高専で学んだことは絶え間ない向上心でした。高専は工学と向上心を教わる場として非常に適したところだったように思います。高専を選んで卒業された人は企業でも使える人が多いというのは、ここ数十年の常識に思えます。

在校生の皆さんも高専精神の心を引き継ぎ、頑張ってください。



卒業生だより クラス会・OB/OG会

M1 同窓会開催

吉富 達夫 (M1)



富山高専 機械工学科 第1回生 同窓会
2023年10月15日 於:ロイヤルホテル 富山砺波

2023年10月15日 機械工学科 第1回生同窓会を開催致しました(於:ロイヤルホテル富山砺波)。最近は2年ごとの開催が通例のところ、20,21,22年はコロナの嵐が収まらず断念を繰り返し、5年ぶりの開催となりました。

恩師の森先生にもお出でいただき、少し先を生きる先輩としての歩みのコツを披露して戴きました。カラオケの効用もそのうちの一つでした。残念ながらカラオケはコロナを考慮し自粛しましたが。また同窓生15名が「おい！おまえ！」の仲に一瞬で戻り、互いの健康を確認しあう高齢者特有の話題で盛り上がったことは勿論です。地域医療のあり方にまで話題が及び、一部には真剣な会話もあったようです。また様々の立場で生きるもの同志の久々の会話からは、新鮮な刺激を受けた者も多かったのでは。中には趣味の陶芸家もおり自作の「おちょこ」を配り、その出来映えに皆が感心を。

お酒が入る程に盛りあがる会も、次回幹事の決定をもちお開きに、その後二次会に移り翌日のゴルフ、庄川狭遊覧などに備えた次第です。なお翌日は天気も良く、庄川のダム湖の水面は映え、ゴルフは和気あいあいのラウンドで両方とも好評でありました。全員が元気を貰い、次回の再会を楽しみに無事現地解散の運びと相成りました

1964年に同窓の仲間となって以来の年月が流れる中、一足先に帰らぬ人となられた方は6名でした。同じ教室の空気を呼吸し、同じ当時の時間を生きた者として彼等への感謝の念に堪えません。物故者黙祷。

E3 2023年と2024年の新年会

川原 久雄 (E3)

2020年2月7日(金)に開催して以来、コロナ禍で中止だったE3新年会を、3年ぶりに2023年3月11日(土)開催しました。立山グリーンパーク吉峰で1泊、7人が参加し、久しぶりの再会に大いに盛り上がりました。そしてこれからも継続しようということで、今年の開催となりました。

今年は2024年2月2日(金)に富山駅前の居酒屋で開催、関東地区から遠方にもかかわらず熊本さんと米田さんが出席し、総勢8人で楽しく過ごすことができました。

今までは、E3旅行会と称して、毎年1～2泊で遠出していましたが、70歳を過ぎるとなかなかできなくなりそうです。でもこうやって、年に1～2回は集まる機会を作って、情報交換しようということで全会一致となりました。



2023年3月11日(土)立山グリーンパーク吉峰にて、左から、川原久雄、館谷清孝、中島潔、高田哲雄、米田守、中田秀芳、上田健一



2024年2月2日(金)富山駅前の居酒屋にて、左から、米田守、金尾誠一、熊本修司、高田哲雄、吉崎喜久雄、館谷清孝、上田健一、川原久雄

51年ぶり！ E4第1回クラス会

村井 好信 (E4)

2023年11月10日、氷見・民宿叶にて参加者14名で初のクラス会を開催し、翌11日には母校の高専祭を見学し、懐かしいひと時を過ごしました。51年ぶりのクラスメイトたちとの再会は学生時代の楽しい思い出を鮮明に蘇らせ、笑い声が絶えず、昔話や近況報告を交わし楽しい宴会になりました。高専祭では孫の様な在校生たちに囲まれ時代ギャップを感じながらも、快活に高専祭に取り組む明るさと情熱を感じました。久しぶりに足を踏み入れた教室や施設は改装されて綺麗になっていましたが、どこか懐かしさを感じ学生時代を思い出しました。今回のクラス会は大変盛り上がりましたので、今後は幹事持ち回り方式で毎年開催することになりました。母校への感謝と共に、これからも高専E4のクラスメイトたちと楽しい老後を過ごしたいと考えています。撮影したビデオや写真はいつでも閲覧できるようにGoogleフォトにアップし、新たにE4のLINEグループを開設して日頃からお互いのコミュニケーションが取れる様になりました。

同級生の小森久夫（E4）さんが、 令和5年春の旭日双光章受章を受賞しましたのでお知らせします。

賞賜 旭日双光章

主要経歴

元 楓国際特許事務所代表 <https://www.kaede-pat.com/>

日本弁理士会役員等に携わり弁理士業務に貢献した

(本人コメント)

特許、デザイン、商標などの知的財産の保護に携わる弁理士は、技術素養のある高専卒業生にとっても適している仕事のひとつだと思います。現に高専卒の方も活躍しています。知的財産はこれからも大切な日本の財産。この道に進む高専卒業生が増えてくる事を期待しています



2023年11月10日 氷見クラス会



クラス会参加メンバー
2023年11月11日



2023年11月11日高専祭

K1卒業50年記念同窓会を 開催して

高井 清明 (K1)

ことしで卒業50年と人生に於いては古希の節目を迎えるに際し、4月23日にホテルグランテラス富山にて同窓会を開催しました。

学生時代から、“まとまりのK1”と言われていた通り、同級生35名のうち27名が参加と8割近くが集る賑やかな会となりました。

容姿の変わり様が大きいせいもあちこちで“お前誰や？”という声が聞こえたものの、直ぐに同時にタイムスリップして会話が弾み2時間半があつという間に過ぎました。

次回は喜寿を迎える2030年の開催を約束して散会しました。 が・・・



富山高専K1卒業50年記念同窓会
2023年4月23日 於 ホテルグランテラス富山

卒業生だより クラス会・OB/OG会

C6卒業50年記念イベント

跡治 正章 (C6)



2023年10月19日～20日に富山市内でC6卒業50年記念イベントを開催いたしました。

我々のクラスでは、コロナ禍期間を除き毎年年末にクラス会を10名余りで行っていますが、卒業して40年・45年・50年の節目の年には一泊二日の記念イベントとしております。

今回は22名が参加し、富山自遊館でのパーティ・宿泊、富岩運河クルーズ&東岩瀬観光で盛り上がりました。パーティでは、全員がマイクを持って日常生活を中心とする近況報告、あっという間に2時間の制限時間が経過しました。その後、広めの和室での2次会で好き勝手なことを語り合い、疲れ切って就寝した人が多かったようです。翌日は、環水公園からクルーズ船に乗って富岩運河・中島閘門の風景を楽しみ、岩瀬で下船後、東岩瀬の古い街並みや馬場家などをボランティアガイドさんに案内していただき、イベントを終了しました。

5年に一度の記念イベントですが、これまで元気に暮らせたことに感謝し、さらに次回までの健康維持策を考えながら家路につかれたことと思います。

因みに55年記念イベントは名古屋で開催することとなっております。

E15 入学から46年目 初めてのクラス会

幹事 長谷部 泰幸 (E15)

2023年10月9日の祝日、電気工学科15期生として入学した卒業生のクラス会を富山市内で開催しました。15歳で当時の国立富山工業高等専門学校に入学して今年で46年目。クラス全員が還暦を迎えた節目として、初めてのクラス会を企画・実施しました。連絡の取れる33名のうち、クラス会には半数以上の18名が参画。しかも東京、神奈川、大阪、長崎といった遠方からも集まったため、たいへんな盛り上がりとなりました。

40年以上会っていないため、初見では誰が誰だかほとんど判りません。クラス会は、まず18名全員が1人1分で自己紹介するところから始めました。全員の自己紹介が終ると、不思議なことに40数年前の友人関係に戻っていました。E15卒業生で現在は富山高専で教鞭をとる佐藤圭祐教授から、統合後の母校の現状についてのフィードバックもあり、初のクラス会は充実したイベントとなりました。

あまりにも楽しいクラス会だったため、数年後に第2回を企画することを全員に約束して散会し、半数が二次会になだれ込みました。



M8 同窓会を開催して

高林 秀一 (M8)

還暦を迎えてこれから毎年同窓会を開こうとみんなで約束しましたが、コロナ禍の影響で数年ぶりによく2023年7月22日に同窓会を開くことができました。久しぶりなのか、20名も集まり楽しく過ごせたと思います。初めに、残念ですが今年1月に亡くなった和泉さん(旧姓京谷さん)への黙とうをして始めました。卒業以来の初めての参加者もいて、各自の卒業してからの話や近況を一人ずつ話してもらいました。しかし、皆話すことが多くて時間がかかり、予定時間をオーバーするのではと心配でした。青春時代の5年一緒に過ごした仲間ですが、卒業して47年たっても当時のことが昨日のように思い出されます。ほとんどの方が、定年を迎え第2の人生を歩んでいます。皆、体のどこかしら悪くなり

場合によっては亡くなる心配があります。参加してくれた同級生総意として 次回同窓会を早めに行い30名の参加を目指していこうと考えています。手始めに、宮越君が当日の集合写真をM8全員に送ってくれました。次回幹事の山田君、松本君よろしくお願ひします。この会がみんな元気でいつまでも続くよう願っています。



E20 親睦ゴルフ&クラス会

種部 元仁 (E20)

卒業して37年目、クラス会は3回目で15年ぶりの開催です。うれしいことに、卒業時の担任であった貴堂先生もご健在でゴルフとクラス会両方に参加していただきました。

令和6年5月3日天気は晴れ。絶好のゴルフ日和のもと富山カントリーで親睦ゴルフからです。貴堂先生を含めて8名でスタート。先生の巧みな技に感動しながら楽しいゴルフとなりました。

続いてメインのクラス会は富山駅近くのお店で18時から開催。先生と3年間で進路変更した者も含めて22名で、うち半分は東京・名古屋など遠方からの参加です。卒業以来、初めて顔を合わせた者もありましたが、5年間を共に過ごした仲間はすぐに学生時代へと戻ることが出来ました。全員と思い出話しが出来るのは高専の良さだと思います。一人ずつ36年間の道のりを報告。みんなそれぞれ頑張ってきていて輝いていました。話は尽きずあっという間に時間が経ち、次の開催を約束してクラス会は終了です。

※今回連絡が来なかった方は連絡先が不明でした。下記まで連絡ください。

同窓会メール toyama@hongoukai.sakura.ne.jp E20種部まで



親睦ゴルフ（優勝は貴堂先生）



富山駅前での集合写真

C27同窓会 (平成7年3月卒業)

吉田 功 (C27)

2023年8月12日(土) C27の同窓会を開催しました。台風の影響もあり参加出来なかった方も出てしまいましたが、今回は恩師の大野先生、川淵先生、森田先生をお招きし総勢18名で楽しいひと時を過ごしました。卒業以来先生と再会する方や、約10年ぶりに再会したクラスメイトの方、様々ありましたが顔を見た瞬間にまるで今週も会っていたかのような感じでした。そしてクラス会が始まるとすぐに全員で盛り上がり、高専時代に戻ったかのように、楽しくしゃべり続けていました。今は、どこどこに住んでいるよ、ちょうど海外勤務から戻ってきて今日参加出来たよ、子供も全員高専に入学したよ、うちの子は高専で去年卒研が森田先生で、親子でお世話になったよ、などなど。

私たちのクラスは25歳のときに2人の仲間を失うという悲しい出来事がありました。仲間の冥福を祈りつつ、そんな私たちも今年で40代が終了。いろんな家庭環境、仕事環境それぞれですが、また元気に再会を約束して締めくくりました。

次はいつ開催しようかな。



右奥に森田先生



写真2列目右側から大野先生、川淵先生

31年ぶり！ 第2回「M24同窓会」

阿部 剛・林 直哉 (M24)



↓連絡はコチラまで



2023年8月12日(土) 機械工学科 第24回生(M24)同窓会を開催

乾杯の瞬間、31年の時を超え一気にタイムリープする。T君のキレある教官のモノマネで忘れかけていた記憶が更に蘇る。こんなに笑い、こんなにふざけ、こんなに美味しいお酒を飲んだのは何年ぶりだろうか。

富山：7名、新潟：1名、関東：6名、名古屋：1名

夏季休暇中、会に駆けつけ、盛り上げてくれた15名の仲間に心から感謝を伝えたい。

ありがとう！これからも、どうぞよろしく。

～今回逢えなかった仲間へのメッセージ～

「M24の会」は、毎年開催します！

今年参加出来なくても、来年がある。今連絡が取れなくても、来年一人また一人と参加者が増え続ける事が我々の願いです。俺たちはあの頃と変わらず、ずーっと待ってるから何時でも遠慮なく連絡をくださいませ。

卒業生だより クラス会・OB/OG会

2002年卒同窓会 (M34・E34・C34・K29)

平木 岳人 (K29)



集合写真



熱唱する富田先生



先生方への花束贈呈

2023年12月30日にとやま自遊館（一次会）およびけやき亭（二次会）にて、2002年卒・全学科合同の同窓会を開催しました。インフルエンザ等による欠席者が出てしまったものの、コロナウィルスの再流行もなく暖冬や当日の天候に恵まれた日に開催できたことは幸運でした。我々が入学時にクラス担任を務めて頂いた増山先生、日比先生、畔田先生、富田先生をお招きし、一次会49名・二次会36名にて人数以上に盛り上がった同窓会になりましたこと、心よりお礼申し上げます。

歓談中には先生方から近況や当時の思い出などお話をいただき、ハイボールを飲みすぎたコンディションでトリを飾った当時K科担任の富田先生には、我々が卒業した2002年にリリースされた「世界に一つだけの花」を熱唱いただき、K科卒メンバー中心に大合唱で盛り上がりはピークを迎えました。

同じ時代に同じ学校で青春時代を過ごした仲間と顔を合わせてテーブルを囲むことがいかに楽しく幸せで尊いかを感じた同窓会は、お世辞なく「楽しかったね」「また会おうね」が溢れて無事に閉幕しました。一次会を中締めした大割君の「5年後か10年後にまたやりましょう」を楽しみに、2024年からまた新たな気持ちで望めそうです。

（同窓会には影響ありませんでしたが、翌々日に発生した能登半島地震で被害に遭われた方には心よりお見舞い申し上げます。）

C41忘年会

妻木 和敬 (C41)



C41忘年会

去る2023年12月29日、C41のクラス忘年会を開催しました。おおよそ5年ごとにクラス全体へ声がけており、今回は卒業から15年・35歳になる年での開催でした。・・・ということもあり、多くの方に家庭がある・小さい子供がいること、師走の忙しい時期ということもあり、わずか4人での忘年会となりました笑。

少人数での開催ではありましたが、新型コロナウイルスが少し落ち着き、対面での飲み会というのも私自身久々でした。現状のこと、昔のことなどについて、大いに飲み語らい盛り上がりました。一次会は予約をしていましたが、飲み足りずその場のノリで二次会へ。週末であること、多くの会社が長期連休に入る前ということもあり、富山の街もだいたい騒がしく店探しは難航しましたが、少人数だったこともありなんとかお店が見つかりました。その後もなんだかんだ三次会まで開催し（四次会まで行ったメンバーも…）、久々に学生に戻った気分で時を忘れ、日付を超えても語らいました。

次回は、5年後の40歳になる年に開催予定です。その時には、多くの参加者が来てくれる事を願っています。

末筆ではありますが、この備忘録は、2024年1月1日に発生した【令和6年能登半島地震】後に残っています。高専の関係者をはじめ、多くの方に影響があったかと存じます。被災された皆様のご心労やご不便を拝察しております。一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

M32 第1回クラス会

菓子 貴晴 (M32)



第1回クラス会

2023年8月12日に、卒業してから初めてのM32クラス会を開催しました。急遽の声がけにも関わらず15名が参加してくれ、残念ながら参加できなかった人も数名電話で参加してくれました。次は20人超えを狙いたいです。

早いもので卒業してから24年が経過しており、流石に風貌に変化はあるものの今でも毎日学校で会っているかのように会話が盛り上がり、あっという間に時間が過ぎました。高専時代の思い出が詰まった富山駅前CIC裏周辺で3軒ハシゴし、気がついたら朝1時を過ぎていました。今は各々違う場所で活躍をしていますが、青春時代を一緒に過ごした同級生は良いものです。

今回開催に至ったのは6月に同級生が亡くなり、その通夜に集まったメンバーで企画をしました。早々に旅立ってしまった同級生がくれたきっかけです。これからは毎年開催することを約束して今回はお開きとしました。また来年。

E36同窓会を開催して

幹事 松田 恭平 (E36)



E36同窓会を開催して

12月30日に富山市内にて、電気工学科36回生同窓会を開催しました。

今回は卒業後20年目の節目の会で、20年経ったことに驚きと感慨が混ざり合った素晴らしい時間を過ごしました。同窓会理事の城光君の挨拶から始まり、今回参加した皆それぞれの人生を歩んできた様子を垣間見ることができ、それぞれが抱えた挑戦や苦勞を分かち合いながら、お互いに共感し合うことができました。また皆の何年経っても変わらぬ和気藹々とした雰囲気と笑顔は、まさに心の充実感をもたらしてくれました。あっという間に時間は過ぎ、忙しい参加者もいるなか急いで記念写真を撮って、次会での再会を約束して散会しました。

結婚式&同窓会

クラス会計係 松井 大貴 (M43)

2023年10月1日(土)に結婚式&同窓会を開催したことをご報告致します。

参加人数は6名でした。今回は結婚式と合わせて開催しました！結婚式では、高専時代の懐かしい写真に思い出を語ったり、大変華やかで素晴らしい式でした。2023年は特に出産ラッシュであったことと、県外での開催でしたので、参加出来なかった仲間がたくさんいます。富山に戻ってきた際には盛大にパーティーしましょう！

皆さま2024年も宜しくお願い致します。



クラス会&結婚式

卒業生だより クラス会・OB/OG会

サッカー部OB会

岸川 敏治 (C8)



令和5年6月12日 富山市:ちゃぶ有
後列左から K4谷 C8高井 K4熊西 M8金森 C9大田 E9前澤
前列左から C8岸川 E8安念(遠田) E8富川 E10秋田 M9渡辺

昭和48年富山県春季高校選手権の優勝メンバーです。卒業後、昭和53年にOBチーム「緑鳳クラブ」を結成し社会人連盟に登録しました。6年の活動後、昭和58年秋に活動を停止して以来約40年ぶりの再会でした。皆65歳を過ぎ、コロナも5類に移行したタイミングで企画しました。容姿はそれなりに歳月を感じましたが、話を始めれば昔からの感覚のまま、チームの和を改めて認識しました。現状は、自営業、フルタイム勤務、パート・非常勤、全くのフリーと各自各様でした。中には、現在も現役のシニアサッカー選手として、今秋に愛媛県松山市で開催される全国大会に北信越代表として出場するメンバーもいて、激励も致しました。当日、所用による数名の欠席者はいましたが、皆元気で再会できたことが何よりのご馳走でした。

会の終了時には次回の開催を約束し、関東方面へのフットゴルフツアーを提案するなど盛況のうちに解散いたしました。皆元気でいつまでも開催できることを願っております。

高専バスケOB会

河上 登 (C9)



後列左より、E9藤田、K4二口、M8彌沢
前列左より、E7折谷、C9河上、K4水野、E13沢村、M11一谷

2023年7月23日に、八兆屋駅の蔵 富山駅店でバスケOB会を開催しました。

7期生1名、8期生1名、9期生4名、11期生1名、13期生1名の全8名が集いました。前回2018年8月に魚津での開催から5年ぶりの開催でしたが、久しぶりにバスケの話ができ、笑いっぱい2時間でした。ありがとうございました。

学校時代では話しできなかった先輩後輩の会話、高専大会北陸予選である最後のシュートが決まっていれば全国大会に行けたのに・・・、あいつは練習には来なかったけどなんで試合には目立つ活躍が出来たのか？などなど、当時を思い出しながらの会話が弾みました。

次回の予定は決まっていますが、もっと輪を広げていければと思っています。

陸上部OB会活動報告

陸上部OB会 副会長 松永友宏 (M33)



2023陸上部OB会

8月12日富山県総合運動公園にて、2023年度の陸上部OB会を開催しました。今年のOB会は毎年同時期に開催される陸上競技会富山カップの応援観戦をOB会行事として行いました。3年ぶりの開催で、また母校ではなく校外での開催という事もあるのか、参加人数は若干さみしくもありましたが、卒業間もない若手OBが参加してくれて新しい出会いがありました。

出場選手のパフォーマンス、陸上競技独特の応援風景、エアサロンの懐かしい香り、この暑ささえも自分たちの選手時代を思い出す手助けをしてくれたように感じます。連日の異常な高温下でとても好記録を狙えるコンディションではない中、本校の選手たちは決勝進出を果たし、私たちを楽しませてくれました。コロナ禍を経て活動を再開するにあたり参加人数の減少、お盆の酷暑下での運動の危険性、現役部員とのスケジュール調整の難しさ、学校施設の使用許可が取りにくい。様々な問題がある中で、なんとかアイデアを出し合い開催することができました。

私は1年のたった1日ですが、学生時代にタイムスリップできるこの日を大切に思っています。学生時代は5年間ですが、OB会は健康でいるかぎり一生続きます。世代を越えた交流もあります。現役部員たちのためにも今後もこのOB会活動を継続していきたいと思っています。

株式会社 朝日工業社

取締役 **中川 和浩** (M15)

〒105-8543 東京都港区浜松町一丁目25番7号
TEL:03-6452-8186 FAX:03-6452-8196
URL:https://www.asahikogyosya.co.jp

株式会社 アルシス

代表取締役社長 **芝田 隆義** (M9)

〒939-2722 富山県富山市婦中町添島1062-1 FC-6
TEL:076-482-5500 FAX:076-482-5501
URL:https://www.alsys-eg.co.jp

しろえび、甘えび、ズワイガニ
地産地消を推進します

とやま市漁業協同組合・岩瀬支所所属

第三 伊登勢丸

船主・船長 **道井 秀樹** (C15)

建設機械の販売・修理・レンタルのことなら

イワセ重機産業株式会社

代表取締役 **安川 栄文** (E20)

〒930-2206 富山県富山市金山新南28番地
TEL:076-405-2155 FAX:076-431-0630
Email:info@iwasejuki.co.jp

もう一つの提案を加える事を常に考えます

株式会社 Eアル

代表取締役 **上田 一人** (M15)

〒939-2612 富山市婦中町上吉川529-31(本社)
TEL:076-465-5255 FAX:076-465-5255
Email:ueda@earu.jp

環境とエネルギーのエンジニアリング 株式会社 NEプロジェクト

代表取締役社長 **水和 啓** (C32)

〒931-8314 富山県富山市栗島町1-2-50
TEL:076-444-1313 FAX:076-444-1599
Email:neproject@ne-pj.co.jp

分離・破碎(環境機械)の製造・販売

株式会社 エムダイヤ

代表取締役 **森 弘吉** (M28) (ME5)

〒936-0002 富山県滑川市中村551-2
TEL:076-476-0062 FAX:076-476-0063
Email:contact@m-dia.jp

高専OBからのご依頼は関係者割引価格で! 弁理士法人 楓国際特許事務所

会長 **小森 久夫** (E4)

大阪市中央区農人橋1-4-34信金中央金庫ビル6階
TEL:06-6941-3982 FAX:06-6941-3983
Email:dliw-info@kaede-pat.com

金属の変化は無限です

協伸熱処理工業株式会社

代表取締役 **酒井 久裕** (K9)

〒939-3548 富山市三郷12番地 富山企業団地内
TEL:076-478-5751 FAX:076-479-0021
Email:kyoushin@pf.ctt.ne.jp

薬づくりの最高に頼れるパートナーへ 協和ファーマケミカル株式会社

代表取締役社長 **三吉 勇人** (C21)

〒933-8511 富山県高岡市長慶寺530番地
TEL:0766-21-3456 FAX:0766-23-9030
URL:https://www.kyowa-pharma.co.jp/

インフラを100年活かすメンテナンス

構造メンテ株式会社

代表取締役 **田中 伸次** (K5)

〒939-0272 富山県射水市若杉277番地23
TEL:0766-30-3222
URL:www.kozo-m.co.jp

日本で一番大きいガラスを加工できる会社です

三芝硝材株式会社

専務取締役 **増山 隆** (M9)

〒933-0974 富山県高岡市岩坪23-2
TEL:0766-24-6811 FAX:0766-27-1222
URL:https://www.sanshiba-g.co.jp/

電気・機械系教員募集中 詳細は問合せ下さい

高山自動車短期大学

学長 **坂井 歩** (E20) (ME1)

〒506-8577 岐阜県高山市下林町1155
TEL:0577-32-4440 FAX:0577-32-4081
Email:info@takayamacollege.ac.jp

立山化成株式会社

代表取締役社長 **片口 真** (C12)

〒939-0302 富山県射水市大江1133番地
TEL:0766-55-3700 FAX:0766-55-1545
URL:https://www.tateyamakasei.com/

植物で雑草対策するサステナな取組を推進

トヤマ商事株式会社

代表取締役 **森実 智洋** (E33)

〒930-0835 富山県富山市上富居1丁目3番10号
TEL:076-407-5500 FAX:076-444-0050
Email:morizane@toyamasyouji.co.jp

世界が注目する先進の研削技術を富山から

日清工業株式会社

代表取締役 **滝内 史貴** (K12)

〒939-2366 富山県富山市八尾町保内2-3-4
TEL:076-455-3755 FAX:076-455-9060
Email:soumu@nissei-corp.co.jp

家の就活窓口・空き家対策をワンストップで解決

株式会社 FUJII

代表取締役 **藤井 義昭** (K14)

〒930-0936 富山県富山市藤木2188番地
TEL:080-4479-6616 FAX:076-425-1585
Email:k.fujii@coral.plala.or.jp

熟技術と未来環境の追求

株式会社 宮本工業所

代表取締役 **宮本 芳樹**

〒930-8512 富山県富山市奥田新町12-3
TEL:076-441-2201 FAX:076-442-9183
Email:saiyou@miyamoto-k.co.jp

世界のベンチャー企業の製品販売による支援

株式会社 LISWAY

代表取締役 **村井 好信** (E4)

〒210-0835 神奈川県川崎市川崎区追分町5-6-1102
TEL:044-344-6592
Email:shopmaster@lisway.com

おもいあふれる世界をつくる

株式会社 山森製鎖

取締役社長 **村田 敬昭** (K25) (CK6)

〒930-0816 富山県富山市上赤江町1-3-63
TEL:076-432-5907 FAX:076-432-0077
URL:https://www.yamamori-group.co.jp/

令和6年度大ほんごう会の開催案内（同窓会総会、懇親会）

令和6年度 ほんごう会定期総会

次第

令和5年に引き続いて、今年も会員皆さんの親睦を図るため、「大ほんごう会」を開催します。恩師の先生方にもご参加頂く予定です。学生時代の思い出、近況報告、企業の情報交換、転職情報など、参加される皆さんにとって有意義な時間になればと思っております。クラス会を兼ねての参加も大歓迎です！参加される先生方は、決まり次第ほんごう会ホームページにお知らせします。多数の皆さんのご参加をお待ちしています。

定期総会（2階） 15時～16時30分

基調講演

講師：名誉教授 寺西恒宣

演題：富山高専とともにPart2-日本一の同窓会を目指して（講師プロフィール）

昭和55年4月 富山工業高等専門学校(機械工学科)着任

平成31年4月 米子高専(校長就任)に異動後、令和6年3月定年退職

懇親会（2階） 17時～19時30分

日時：令和6年11月30日（土） 15時～19時30分
場所：パレブラン高志会館
（富山市千歳町1-3-1 TEL 076-441-2255）

参加費：定期総会（講演会含む参加費無料）
懇親会 1万円（40歳以上(37期生)の男性）
7千円（女性と40歳未満の男性）
どちらかのみのお出席も出来ます。



申込みは、ほんごう会ホームページ申込みフォームまたはメールにて、**11月15日まで**にお知らせ下さい。

関東支部懇親会の開催案内

4年振りに関東地区の懇親会を開催します。富山からの日帰り参加も大歓迎。クラス会や部活同窓会感覚で仲間を誘い合ってください。

日時：令和7年2月1日（土曜日）12時～15時
場所：上野精養軒本店（西洋料理の円卓ランチ）
（東京都台東区上野公園4-58）
TEL：03-3821-2181

会費：1万円
URL：<https://www.seiyoken.co.jp>
JR上野駅の公園口より徒歩5分

参加申し込み先：M1長谷治男 hase824@ozzio.jp 090-2540-3457 hasechan8-10@docomo.ne.jp

事務局からのお知らせ

1 令和6年度定時理事会開催

令和6年度ほんごう会定時理事会が6月20日に開催され、提案された3件の議案は全て承認されました。詳細はほんごう会HPに掲載します。

2 会員情報変更手続き

ほんごう会ホームページより、会員情報の変更が出来るようになりました。住所・勤務先・連絡先等の変更が有りましたら変更登録をお願いします。

3 協賛広告の申し込み

会報誌ほんごうへの協賛広告は、次号以降も実施致します。申し込みは、ほんごう会事務局までご連絡をお願いします。

編集後記

会報誌ほんごう(Vol.28)は、クラス会の投稿が15件と過去最多となりました。何十年振りに開催したクラス会、4クラス合同の同期会など盛り沢山の投稿を頂きました。投稿頂きました皆さんには厚くお礼申し上げます。事務局では、次号(Vol.29)の原稿集めもスタートしており、卒業生皆さんに多数の話題を提供していきます。もっともっと、会員皆さんの交流が活発になって会報誌に投稿をお願いします。（藤田）

事務局

・藤田 正良 (E9) : fujimasa70@gmail.com
・種部 元仁 (E20) : tane@b.email.ne.jp

ほんごう会事務局

HP <https://hongokai.sakura.ne.jp/>
Eメール toyama@hongokai.sakura.ne.jp

